

# 令和 5 年度北陸信越工学教育協会福井県支部研究集会の報告

福井大学 学術研究院工学系部門 知能システム工学講座 教授  
藤垣 元治

## 1. はじめに

令和 5 年度の北陸信越工学教育協会福井県支部研究集会を令和 5 年 12 月 7 日（火）にオンラインで開催した。北陸信越工学教育協会福井県支部には、福井工業高等専門学校、福井工業大学、福井大学があり、それぞれ学生主体の活動を通じた創成教育を進めている。それぞれの活動を紹介する場として本研究集会を企画した。

この企画は、学生主体の活動紹介の場を作ってみようということ福井工業高等専門学校と福井工業大学と相談して昨年度から実施しており、今年度はその 2 回目になる。

実際に活動している学生に発表してもらおう場をつくれれば、お互いの活動の様子を知り、それが新しいアイデアや、学生間や教員間の交流が生まれるきっかけになるのではないかという趣旨である。

## 2. 実施概要

図 1 に本研究集会のポスターを示す。その下に、実施プログラムを示す。冒頭の開会挨拶が北陸信越工学教育協会福井県支部長の福井大学工学部長明石行生氏からあり、その後、筆者から趣旨を説明した。

福井工業高等専門学校からは、専攻科 1 年生の「創造デザイン演習（前期）」において全国高専デザコン 2023 in 舞鶴と福井高専ビジネスアイデアコンテスト 2023 に出場した内容について、3 件の発表があった。

福井工業大学からは、「原子力災害対応ピクトグラム製作」と、「データを通じて外国人向け医療機関アプリの開発」、「地層処分を考えるフォーラム in 福井 報告」について 3 件の活動報告があった。

福井大学からは、学際実験・実習において 1 年生チームによるものづくり活動の紹介と学年混成チームによるブリッジコンペティションへの出場、大学院生の PBL においてまちづくりに取り組む学生の活動紹介があった。

学生グループの取り組み内容は、それぞれ、おもしろいアイデアと、それを実現させようとする取り組みがわかりやすく説明されていた。また、かなり深く取り組んで社会実装されているものや、チームとして長年続けてきた活動など、興味深いものであった。プレゼンテーションについてもよく準備されていて上手な発表が行われていた。



## 令和 5 年度 北陸信越工学教育協会 福井県支部 研究集会

<テーマ>  
学生主体の活動を通じた創成教育の紹介

開催日時：令和 5 年 12 月 7 日（木）13:00～

開催方法：オンライン

主催：北陸信越工学教育協会福井県支部

発表者：福井工業高等専門学校

福井工業大学

福井大学



図 1 福井県支部研究集会のポスター

### <プログラム>

13:00 開会

開会の挨拶 明石 行生（北陸信越工学教育協会福井県支部長/福井大学工学部長）

開催の趣旨説明 藤垣 元治（事業企画委員/福井大学工学系部門知能システム工学講座）

13:10～13:55 福井工業高等専門学校

専攻科 1 年「創造デザイン演習（前期）」における「全国高専デザコン 2023 in 舞鶴（AM デザイン部門）」および「福井高専ビジネスアイデアコンテスト 2023」応募への取り組み（PS: 生産システム工学専攻, ES: 環境システム工学専攻）

(1) 「連結！ ひんやりんぐ」

長田大成（ES）、川越瑠々空（PS）、木下颯（PS）、下川紗奈（ES）

(2) 「Chopstraw」

山田創平（PS）、蜂谷良希（PS）、下村成輝（ES）、田中こころ（ES）

### (3) 「Imagine Cup」

飯塚陸斗 (PS), 石原しいな (ES), 大久保洋平 (ES), 齋藤陽季 (PS)

13:55~14:10 福井大学

(1) 「マイコンを使ったゆで卵装置の試作」

物質生命科学科 1 年 家神威月, 渡辺大輝

14:20~15:05 福井工業大学

(1) 「原子力災害対応ピクトグラム製作」

デザイン学科 4 年 酒井梨世

(2) 「データを通じて外国人向け医療機関アプリの開発」

原子力技術応用工学科 3 年 Carren

(3) 「地層処分を考えるフォーラム in 福井 報告」

原子力技術応用工学科 3 年 淵上賀史

15:05~15:35 福井大学

(1) 「AI 援用の設計に基づくブリッジコンペティションへの挑戦」

建築・都市環境工学科 4 年 白坂莉理

(2) 「空き地の創造的活用による都市や住環境の質の向上 - くるまるガーデンと新栄テラスでの取り組み - 」

工学研究科建築土木環境工学コース M2 成田悠真

15:35~15:45 意見交換 (全体を通じた質問, 意見, 討論など)

### 3. おわりに

今回, 昨年同様にオンラインでの開催であったが, 近い将来は対面で発表と交流ができるようになれば, さらに活発な交流ができるのではないかと考えている. これがきっかけになって, 福井県の高専と大学の学生間や教員間においても, 工学教育に関連する交流が深まることも期待している.

最後になりましたが, 皆様のご協力により, 有意義な発表会となりました. 発表していただいた多くの学生の皆様, 実施にあたり準備等いただいた皆様, ご参加いただき, 質問やコメントをいただいた皆様に感謝申し上げます.